

教育機関における「一貫教育」の形態は様々である。同志社の場合、その機関は幼稚園から大学(大学院含む)まで最も広い範囲に及んでいる。八田総長も述べておられるように、一貫教育の効果が現れ始めるのは平均して自我に目覚める中学校からであろう。また大学は一般入試で入学する学生が大半であり、同志社の中の縦の社会から一般の横の社会へ果立つ緩衝材の役割を果たしていると考えられる。多感な時期に同志社で過こ

した期間が長いほど同志社への愛着が強くなり、社会へ果立つたのちでも同志社への思いは強く残るのである。そのとき一貫教育はどのように継承されるのであろうか。筆者は新島の言う「自学自習」がその役割を果たすと考えている。すなわち、学園で得た糧をもとに社会に果立ち「自立」し、一生を終える段階で一貫教育は完結するのが理想であろう。その間、一般社会における横のつながりが織物の横糸の役割を果たし、一貫教育とい

う縦糸に横糸が加わることにより強固な足場あるいは土台となっているのであろう。ところで、筆者の同志社との出会いは大学入学時であり、その後大学院をへて同志社へ奉職し今日に至っている。すなわち、出会いが一貫教育のいわゆる最後の段階であったため、大学在学時は同志社の一貫教育を肌強く感じることが正直なかつたと言つて良い。幸い教員として同志社に奉職し、今度は一貫教育を施す立場になり、

実際に学生に接するようになって徐々にその意義を理解できるようになった。しかし、中学校から同志社に入学した同志社人には遠く及ばず、縦糸が脆弱であるかもしれないが、「自学自習」により、老年にいたつて遅まきながら縦糸が幾分しつかりしてきたのであれば幸いである。

対談して下さつた方々、公演して下さつた方々、執筆して下さつた多くの方々、紙面を借りてお礼申し上げます。(吉門)

●同志社広報委員会小委員会委員

ABC順・〇印委員長

- | | | |
|-----------------------|-------|-------|
| 幼稚園教諭 | 藤原 雅人 | 絵人 覚行 |
| 大学グローバル地域文化学部教授 | 馬西 田 | 英 信 |
| 大学広報部広報課長 | 源今 磯 | 岩田 喬芳 |
| 女子中学校・高等学校事務長 | 田 敦 | 田 伸一 |
| 大学広報部長 | 岩田 敦 | 田 悦子 |
| 大学社会学部助教 | 田 敦 | 田 浩行 |
| 中学校・高等学校事務長 | 田 敦 | 田 優子 |
| 大学神学部准教授 | 田 敦 | 田 耕太 |
| 国際中学校・高等学校事務長 | 田 敦 | 田 幸子 |
| 女子大学現代社会学部准教授 | 田 敦 | 田 紀理 |
| 大学生命医科学部准教授 | 田 敦 | 田 正典 |
| 女子看護学部准教授 | 田 敦 | 田 在布 |
| 女子大学表象文化学部教授 | 田 敦 | 田 肇 |
| 女子大学文化情報学部助教 | 田 敦 | 田 聡 |
| 女子大学薬学部准教授 | 田 敦 | 田 道子 |
| 大学心理学部准教授 | 田 敦 | 田 亮輔 |
| 大学経済学部准教授 | 田 敦 | 田 美紀子 |
| 大学文学部准教授 | 田 敦 | 田 裕一 |
| 大学政策学部教授 | 田 敦 | 田 俊秀 |
| 大学法学部教授 | 田 敦 | 田 雅一 |
| 小学校事務長 | 田 敦 | 田 栄一郎 |
| 女子大学学芸学部教授 | 田 敦 | 田 寿 |
| 大学グローバル・コミュニケーション学部助教 | 田 敦 | 田 紀雄 |
| 法人事務部校友同窓課長 | 田 敦 | 田 進三 |
| 大学スポーツ健康科学部教授 | 田 敦 | 田 隆 |
| 国際学院事務長 | 田 敦 | 田 野 |
| 大学商学部准教授 | 田 敦 | 田 内 |
| 香里中学校・高等学校事務長 | 田 敦 | 田 山 |
| 女子大学広報部広報室広報課長 | 田 敦 | 田 渡 |
| 女子大学生活科学部教授 | 田 敦 | 田 本 |
| 法人事務部長 | 田 敦 | 田 由 |
| 〇大学理工学部教授 | 田 敦 | 田 吉 |

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

- ・送料(1冊分200円)のみのご負担でご購読いただけます。
- ・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。
- ・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入同志社大学広報課

同志社時報 第144号
 編集人 吉門進三
 発行人 八田英二
 発行 学校法人同志社
 同志社大学広報課同志社時報係
 電話 (075) 251-3120
 印刷所 株式会社 石田大成社
 2017年10月1日発行